

# きずな

No.13

平成30年  
9月発行

## 【目次】

はるだ 原田小学校区コミュニティ運営協議会(宇美町).....	1・2
もんじゅかい 文殊会(築上町) .....	3・4
県庁お知らせ掲示板 .....	4

### ■ はるだ 原田小学校区コミュニティ運営協議会(宇美町)

## ふれあいと優しさの移動図書館

～ はるだ 原田小学校区コミュニティ運営協議会(宇美町)～

一本松公園などの豊かな自然、宇美八幡宮・古代山城大野城跡などの歴史的・文化的な資源が残る宇美町。かつては炭鉱の町として栄え、現在は軽工業地帯として成長を続けています。



移動図書館を運営する「原田小学校区コミュニティ運営協議会」の皆さん(右から2番目が会長の安川さん)

宇美町には、現在5つの小学校区単位のコミュニティ運営協議会があります。このうち、原田小学校区コミュニティ運営協議会は、「宇美町地区振興計画」に基づき、他4校区に先駆けたモデル地区として、校区内の12の行政区(現在は自治会)が行政区の枠を超えて交流を促進するとともに、安全・安心で住みよい地域づくりを進めることを目的として、平成26年度に設立されました。協議会は、企画・検討部、健康福祉部、環境整備部、公民館活動部、青少年指導部、地域づくり部で構成され、幅広く活動を行っています。

この原田小学校区では、夏休み期間中、子どもたちの交流の場の一つである小学校内の図書館がお休みとなってしまいます。校区外にある町立図書館へは、子どもだけで行くには距離があり、共働き世帯はなかなか連れて行けないため、家に1人で閉じこもってしまいがちな子どもが多いことが、地域では課題となっていました。地域住民と子どもたちの関係性が希薄になる中、このままだと子ども同士の関係性も希薄化しかねない。そんな課題を解決するため、子どもたちの読書の場・ふれあいの場として協議会の健康福祉部が運営する「原田の郷・移動図書館」取材しました。

## 子どもたちのために

移動図書館は、平成27年度から夏休み期間に開館され、運営・実施にあたっては、町からの交付金や県の「ふくおか地域貢献活動サポート事業」が活用されています。

移動図書館と言えば、バスなどに本を積んで町内各地を巡回するものをイメージしがちですが、この移動図書館は夏休みの間、臨時的に校区内の「宇美南町民センター」内の部屋を利用し、開設しています。本の貸出しはもちろんのこと、勉強スペース、本の読み聞かせ、さらにはミサンガ作りなどの工作をすることもでき、子どもたちの1つの遊び場としても機能しています。

館内には、呼びかけにより集まった地域のボランティアの方たちが常駐しており、また協議会の安川会長は、「中学生もボランティアとして来れば勉強になるのでは？」ということで、中学校へ協力依頼し、中学生もボランティアとして参加しているそうです。蔵書については、町立図書館からの貸出しの他、地域の方へ寄贈の呼びかけをすることで、約1,200冊の蔵書が集まりました。

## 子どもたちにとって楽しめる場

図書館は、基本的に10時に開館しますが、開くのが待ちきれず、30分も前から来ている子もいるそうです。

館内では読書をする子もいれば、夏休みの宿題をする子も。中にはボランティアの方と工作をしたりする子もいます。取材に訪れた日は、ボランティアの方による本の読み聞かせが行われており、その時間になると子どもたちは熱心に耳を傾けます。他にも昔遊びや映画の鑑賞会などのイベントが行われており、子どもたちと地域の人たちとを繋ぐ、ふれあいの場としての役割を担っています。

## 地域にもたらす効果

夏休み期間中に移動図書館を開館したことで、保護者の方からは「仕事をしているので校区外の図書館まで子どもを連れて行けなかったが、近くに図書館ができてよかった」「子どもたちの遊び場ができたので、ありがたい」



①町民センター内に用意された蔵書。町立図書館からの貸出し、地域の方からの寄贈もあり現在は約1,200冊もの蔵書が揃っています。

といった声が多く出ています。ボランティアの方も「読み聞かせなど、自分たちの得意なことを活かせる場所ができた」とやりがいを感じるようになり、当初5人から始まったボランティアの方も徐々に増えていきました。最近では本を寄贈したいという問い合わせが増えているなど、地域の人たちの理解が増してきているように感じているとのこと。

## 今後の協議会の活動のために

現在、町民センター内の3つある研修室内の、2つを利用して移動図書館を開いていますが、ここを利用する子どもたちが徐々に増えてきているため、将来的には3つ全てを利用し、のびのびと勉強や読書ができる場、地域の方と交流ができる場にしたいとのこと。

移動図書館への運営スタッフのボランティアは集まるが、協議会の他の事業への参加が少ないため、協議会の安川会長は「この移動図書館を通じて、子どもたちや保護者の方に、協議会や自治会などのコミュニティ活動を知ってもらい、積極的に他のイベントにも参加してもらえるようにしていきたい」と語ってくれました。



②ボランティアの方による絵本の読み聞かせ。曜日によっては、昔遊び・音楽鑑賞・映画上映などのイベントが行われています。



③ボランティアの方とミサンガを作る子供たち



## 地域の宝を活かした古民家レストラン

～文殊会(築上町)～



伝法寺庄を運営する「文殊会」女性部の皆さん  
(後列右側が女性部長の青山さん)

福岡県の東部に位置する築上町。南は緑豊かな山間部が広がり、そこを水源とする多くの河川が北に向かって流れ、波穏やかな周防灘に注がれる、海も山も自然に愛される町です。

築上町の中心地から南に約10km進むと、中山間地域に位置する上城井地区があります。上城井地区は、平成26年に放送されたNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の主人公黒田官兵衛最大の宿敵である宇都宮鎮房ゆかりの地として、多くの観光客でにぎわいをみせました。

今回は、ここ上城井の一角に佇む、古民家を改装したレストラン「伝法寺庄」と、これを運営する「文殊会」取材して来ました。

### 空き家からレストランへ

文殊会は、昭和56年に地域の有志によって結成され、「白い彼岸花祭り」「智恵の文殊大祭」といった地元のお祭りを中心に活動してきた団体です。

その文殊会が古民家レストランを運営することになったのは、地区内にあり、当時空き家となっていた「旧竹内邸」を、「地域のために役立ててほしい」と町に寄贈された



①明治13年に建築された近代和風木造住宅「伝法寺庄」  
営業日：毎週金・土・日曜日  
営業時間：午前11時～午後3時(ランチ営業)※2日前までに要予約

ことがきっかけでした。

「旧竹内邸」は、宇都宮氏家臣の末裔により明治13年に建築された、池庭を備えた近代和風木造住宅です。なんと今年で築138年!!

地域では「レストランではなく、地域の人たちの憩いの場として使用した方がいいのでは?」という声もありましたが、上城井地区の観光スポットに訪れたお客さんから「食事処がなく困っている」という声が上がっていたこともあり、この魅力溢れる旧竹内邸をレストランとすることにしました。



②取材当日に提供いただいた、上城井産のお米や野菜、キノコなど旬な食材をふんだんに使用した郷土料理。  
メニューは季節によって変わるので、色々な料理を楽しめるのも魅力のひとつです。



③空き家の状態からきれいに改修された中の様子  
畳・襖・障子が、和の趣を感じさせる、落ち着いたくつろぎの空間です。

### 古民家レストランの営業に向けて

国の地方創生加速化交付金を活用して旧竹内邸を改装し、平成29年3月に「古民家食庵『伝法寺庄』」のオープンにこぎつけました。

約20人で活動する文殊会は、男性部と女性部と2つの部会に分かれており、古民家レストランは女性部が週3回、ボランティアで運営しています。

営業をするにあたっては、「全員が飲食店運営の素人であったため、金額はいくらに設定するか、メニューは何

にするか、食材はどこから仕入れるのかなど、ほとんどが手探りでスタートだった」と女性部長の青山さんが営業を開始した当時の苦労を語ってくれました。

## もっともっとお客さんに喜んでもらうために

上城井地区は、「旧藏内邸」や「本庄の大楠」などの観光資源には恵まれている反面、食事処が少なかったこともあり、伝法寺庄は上城井地区を訪れる方々から大変喜ばれています。米や野菜、キノコなどの地元で採れる旬な食材を、そのものの風味を最大限に活かし、昔ながらの素朴な味付けで調理した郷土料理・田舎料理は、美味しいことはもちろん、「今ではなかなか食べる機会がなくなった」という懐かしさが老若男女問わず好評。これが口コミで瞬く間に広がり、オープンからわずか1年余りで予約が取れない日が出てくるほどの人気店となりました。

また、料理の提供のみならず、「来てくれたお客さんにどうしたらもっと楽しんでもらえるか」を考え、古民家の雰囲気に合わせて昔物語の読み聞かせなどのイベントを企画・実施しています。今では、伝法寺庄を目的に県外から上城井を訪れる人もいるそうで、地域にはますます多くの方が訪れるようになり、大変な賑わいを見せています。

## より一層上城井地区を盛り上げるために

同じ上城井地区にある地域おこし団体「上城井ふれあい協議会」が、フットパスに取り組んでいます。フットパスとは、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことであり、自然豊かな上城井地区にぴったりのものです。この「伝法寺庄」もコースに入れることで、歩き疲れた人たちに立ち寄りてもらい、お茶などを飲んで疲れをとってもらいたいとのことでした。

## 上城井地区の中心として

さらに、お店の周辺には、使われなくなった農地や空き家があるため、「それらを利用して簡単な休憩所や野菜の販売もしたい」と話す女性部長の青山さん。「そうすれば上城井地区に住んでいる高齢者に仕事生まれ、定年を迎えてもやりがいを感じてくるようになると思う。将来的にはこの伝法寺庄を上城井地区の1つの拠点とできれば」と今後の夢を語ってくれました。

## 県 庁 お 知 ら せ 掲 示 板

### 地域住民の移動手段の確保への支援事業

#### ～地域コミュニティで繋ぐ公共交通～

本事業は、コミュニティバスの運行や路線バスへの補助など、生活交通の維持確保対策を行っている市町村に対し、広域的な観点から支援するものです。

その中で、市町村が行う地域コミュニティ運送の実証実験経費や車両購入経費に補助を行っています。

※ 地域コミュニティ運送とは、地域コミュニティ又は特定非営利活動法人が運営主体となり、実施する地域住民の乗合運送のことをいう。

交通政策課 092-643-3166

### 安全・安心まちづくり 県民の集い

#### 平成30年度

#### 「安全・安心まちづくり県民の集い ふくおか」 について

福岡県では、毎年安全・安心まちづくりの一環として、県警察、県防犯協会連合会などと合同で、県内全域の地域防犯活動団体が一堂に集う「安全・安心まちづくり県民の集い ふくおか」を開催しています。

今年度は、10月6日(土)になみきスクエアでの開催を予定しており、防犯功労者等の表彰、安全・安心防犯ディスカッションなどの催しを行います。

生活安全課 092-643-3124